

6 今年度の重点課題に対する総合評価

- (1) 単位修得率は目標を上回った。休む生徒が少なくなったことが要因である。生徒が日頃の学習を自己管理できる「毎日の授業の記録」の活用では、その意義を繰り返し説明する必要があった。1日あたりの学習時間の実態は60分であり、増やす方策の工夫が必要である。
- (2) 大半の生徒はルールを守って学校生活を送っているが、「あいさつ」の定着や制服の着こなしの指導について継続性が必要である。「保健だより」、「ビタミン愛」発信などにより、自身の健康に理解と関心を深めさせた。授業のUD化やSCやSSWの活用により、生徒支援を充実させる。
- (3) 多様化する生徒の進路希望に対して、年次ごとに進路ガイダンスを前期2回、後期1回実施した。カウンセリングや丁寧な個別指導に重点をおき進路実現を進めた。新制度入試や新学習指導要領に対する理解を深め、1・2年次の進路指導を具体化したい。
- (4) 生徒会が中心に生徒の意見を積極的に取り込んでおり、参加生徒の満足度はどの行事も高かった。図書の貸出人数はなかなか増えないが、来室者は昨年度より多く閲覧室での読書数は多かった。
- (5) 専門学科では資格取得で生徒の自信を深めさせている。生徒の実態を踏まえ、検定指導の研究や個別指導の工夫により受検率、合格率の向上を目指した。合格率はおおむね目標を達成した。

7 次年度に向けての課題と方策

近年、不登校経験者の学び直し、障害や困難を抱える生徒への特別な支援、外国につながる生徒への配慮など、定通教育は多岐にわたっている。生徒一人ひとりの夢を実現させるために、先進的な教育手法による基礎学力の保証はもとより、望ましい勤労観を養い自律する力を個々に育むことが大切となっている。

本校では、多様化する生徒のニーズに対応し、学校全体のユニバーサルデザイン化とインクルーシブ教育のさらなる充実、新たに通級による指導を組織的に進めている。その大切な視点として、「思考力・判断力・表現力」を育むための授業改善、ICT教育の研究、SC・SSWを活用した教育相談の充実を図っているところであり、積極的に研修や連携を進め、きめ細やかな教育を実践したいと考えている。

今後、新学習指導要領の実施に向けたカリキュラムマネジメント、学びの基礎診断や新共通テストへの対応など、1つ1つの課題に教職員一丸となって取り組みたい。

8 学校アクションプラン

平成30年度 志貴野高等学校アクションプラン - 1 -				
重点項目	学習活動			
重点課題	- 単位修得率の向上（学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る） - 生徒の学習実態の把握			
現 状	- 安易に授業を休む生徒が見受けられる。 - 学習意欲がなく、学習習慣が身につけていない生徒もいる。 - 学力差が生じており、一斉授業が難しくなっている。			
達成目標	単位修得率80%以上		「学習時間調査」実施（前期1回、後期1回）	
方 策	- 各科目で「毎日の授業の記録」を活用し、生徒一人一人に出欠の記録を付けさせる。 - 生徒が自らの出席状況を確認することによって、授業に参加することの意義を知る。 - 生徒が利用しやすい『受講ガイド』を作成する。 - 生徒の学力、興味・関心などを把握し、授業に対する興味・関心を引き出す。そこから、生徒の主体的な学びを促し、出席率、単位修得率の向上につなげる。 - 生徒の実態を、より正確に把握するために面接や個別指導を充実する。		- 生徒自身にも自らの学習時間・態度を見つめ直す機会として、「学習時間調査」を実施する。 - 家庭での学習時間が充実するように、教材や課題などを工夫する。 『学習・生活の手引き』の「毎日の授業の記録」を活用し、生徒の学習実態を把握する。	
達 成 度	単位修得率91.7%（前期）（後期）		2回実施	
具体的な取組状況	「毎日の授業の記録」を生徒が使いやすい方式に工夫して改めた。		- 前期、後期の期末考査期間中に調査を行い、生徒の学習時間の把握に努めた。 - 集計データを職員に報告するとともに、生徒の実態把握のために利用した。	
評 価	B	単位修得率は目標を上回ったが、「毎日の授業の記録」は定着しなかった。	B	実態の把握は進んだが、平均学習時間増加のための改善方を十分に示すことができなかった。
学校関係者の意見	- 単位修得率91%はとても高い。評価をAとして良いのではないかな。 - 単位修得は休む生徒が少なくなったことが要因であり、ドロップアウトを防ぐ指導体制ができていると思われる。 - 学習時間調査の実施を目標とするより、1日あたりの学習時間の検証すると良い。			
次年度へ向けての課題	「毎日の授業の記録」については、より使いやすいように様式変更を行い、その意義を十分に説明する必要がある。		これまで以上に、家庭での学習が定着するような工夫が必要である。	

評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:どちらかというと達成できていない D:ほとんど達成できなかった



重点項目	学校生活	
重点課題	・ 基本的生活習慣の確立と問題を抱える生徒に対し、情報交換や検討会を開催して迅速に対応する。 ・ 支援を必要とする生徒のために、校内体制を整える。	
現 状	・ 時間の厳守がやや苦手で、始業のベルに間に合わない生徒が若干いる。 ・ 生徒校風委員を中心に定期的な「あいさつ運動」を行っており、期間中は自発的にあいさつをする生徒が多いものの、日常的にあいさつをする指導の工夫が必要となっている。 ・ 制服の着こなしについては、常に声かけが必要である。頭髮については、定期的な指導により染色や加工する生徒が少なくなっている。 ・ 自分で心身の健康状態を把握できず、適切な対応ができない生徒がいる。 ・ 他者との人間関係が適切に築けず、学校生活に支障をきたす生徒がいる。 ・ 授業や行事などに「困り感」を持ち、参加できない生徒もいる。	
達成目標	学校生活アンケートにおいて、「良好またはおおむね良好」80%以上 年2回実施するユニバーサルデザインのアンケートにおいて、「できている」50%以上。	
方 策	・ 教職員による校内巡視を実施し、学校全体で時間を守る指導を行う。 ・ 身だしなみに関する指導を定期的実施しながら、生徒には毎月「行動・身だしなみ」の自己チェックを記入させて自己改善させる。 ・ 生徒校風委員による「あいさつ運動」の推進や「ネットルール作り」、サイクルリーダーによる「交通マナーUP」など、生徒たちによる生徒指導を支援する。 ・ 保護者との連携を密にして、基本的生活習慣の確立や規範意識の向上を促す。 ・ 「着こなしセミナー」「薬物乱用防止教室」「マナーセンスUP教室」の効果を高めるため、段階的な年次毎の実施に見直す。	
達 成 度	「良好」と「おおむね良好」77.8% 「できている」30% 「少しはできている」57% あまりできていない18%	
具体的な取組状況	・ 「あいさつ運動」や「ネットルール作り」、「交通マナーUP」については、校風委員を中心に生徒が主体となって活動できた。 ・ 制服の着こなしに関しては、「良好」と自己評価をしている生徒が多いものの、女子生徒の中には、本校生徒としての自覚に薄く、スカート丈、ピアス、化粧など決まりを守れない生徒がいる。	
評 価	B	大半の生徒はルールを守って学校生活を送っているが、アンケート結果は自己評価のため少し甘い数値と思われる。 B 「できている」が目標に達しなかったが、「少しはできている」を加えると8割以上となり前向きに取り組んでいる。
学校関係者の意見	・ 自己評価以外で客観的な評価ができると良いのでは。 ・ 基本的生活習慣やマナーの指導では継続性が必要であり、あいさつや遅刻については改善が必要である。 ・ 親の言葉だけではなかなか指導しきれない部分があり、先生方の言葉はありがたい。	
次年度へ向けての課題	・ 「あいさつ運動」の効果により、あいさつをする生徒が増えてきた。これからも現状を維持しつつ、定着するよう継続的に指導する。 ・ 制服を正しく着こなせない生徒について、粘り強い指導をする必要がある。	

平成30年度 志貴野高等学校アクションプラン - 3 -		
重点項目	進路支援	
重点課題	・社会全体や地域の実態を把握し、生徒、保護者に対して適切な情報を提供する。 ・年次の状況に応じた進路支援を行い、進路意識の向上と進路希望の実現を図る。	
現 状	・地元志向が強く、進学も県内及び近県への希望が多い。 ・卒業年次における生徒の状況が毎年違い、それぞれに応じた個別指導が必要となっている。 ・進学、就職に迷ってアルバイトを続ける者など進路未定者がおり、早い時期から将来の職業について考えさせる必要がある。	
達成目標	進路決定率90%以上	計画的、継続的な進路指導を推進するために、各年次に進路ガイダンス年3回を実施する。
方 策	・就職支援教員、学科、年次の連携を図り、進路指導を組織的に推進する。 ・大学や企業への訪問を実施し、求人や入学試験の動向など情報収集を行う。 ・保護者会やPTA総会、「志高だより」等により、進学や就職に関する情報を提供する。 ・面接を計画的に実施し、生徒の状況を把握して実態に応じた進路情報の提供に努める。 ・進路ガイダンス、進路説明会、進路講話を計画実施して、進路意識の高揚を図る。 ・就業体験を通して、望ましい職業観を身につけさせる。	・自己理解を深めさせるため、適性検査を実施する。 ・ガイダンスを計画的に行い、主体的に進路を選択する力を育成する。 ・進学、就職に迷ってアルバイトを続ける者などの進路未定者に対し、個別指導を行う。 ・進路に関する情報を校内で共有し、進学希望者の意欲が向上するような環境作りに努め、進学者に対する支援体制を充実させる。 ・基礎力向上講座や小論文対策講座を開設し、進学希望者の学力向上に努める。
達 成 度	90.48%	各年次で年3回実施した。
具体的な取組状況	・JSTとの面談を2年次のうちから実施するなど、早めに進路指導を本格化させて成果があった。 ・教職員対象の進路研修会を実施し、新制度入試や新学習指導要領に対する理解を深めた。 ・個別指導の強化で進路に対する意識を高め、進路希望未定（1・2年次）を減らすことができた。	
評 価	A	進路未決定の生徒がまだ若干名いるので、進路実現に向けた支援を継続する。
学校関係者の意見	・進路支援については、生徒たちの様々な進路先があって大変であったと思う。 ・進路先が集中する傾向があるので、広い情報収集が必要である。	
次年度へ向けての課題	・新しい入試制度に向けて、1・2年次の進路指導を具体化する。 ・現行入試最後の3・4年次向けの進学指導や、求人状況に応じた就職指導を的確に実施することで生徒の進路実現を図っていく。	

評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:どちらかというと達成できていない D:ほとんど達成できなかった



平成30年度 志貴野高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動		
重点課題	・学校行事、ホームルーム活動等に生徒の積極的な参加を促し、満足度を高める。 ・図書委員会活動の活性化と読書の習慣を育成する。		
現 状	・すべての生徒が生徒会活動や学校行事に、積極的に参加しているとはいえない。募金活動、ボランティア活動、保育園や障がい者施設での交流などに参加する生徒数も減少傾向にある。また、文化系の部活動は活発だが、運動部の加入率が低くなる傾向にある。 ・図書委員会では中央図書館での読み聞かせボランティア、文化祭での展示、図書館だよりの編集を行っているが、自主的に活動する生徒は少なく、参加も特定の生徒に偏っている。また、図書館を利用する生徒が限定され、図書の貸出人数は増えていない。		
達成目標	学校行事、生徒会行事、ボランティア活動などに参加した生徒の満足度80%以上。2冊以上の本を借りる人数70人以上。		
方 策	・事前アンケートにより生徒の意見や要望を行事に積極的に取り入れ、参加意識を高める。また、生徒の満足度や問題点を把握する。 ・満足度の低かった生徒の声に耳を傾け、より多くの生徒が充実感を得ることができるよう工夫する。 ・図書委員ミーティングを月1回開催し、生徒主体の研修を実施する。 ・リクエスト帳を活用し、図書委員を中心に読書意欲を喚起する。 ・図書だよりの内容を充実させ、来館者の増加や読書意欲の喚起に努める。		
達 成 度	各学校行事	出席率	満足度
	校内生活体験発表大会（7月）	92.9%	98.6%
	スポーツ大会（9月）	89.4%	99.1%
	文化祭（10月）	84.7%	98.0%
	百人一首カルタ大会（2月）	84.4%	98.1%
具体的な取組状況	・生徒の興味・関心を考慮して、主として動く委員の作業内容を具体的に示し、生徒が行事に主体的に参加できるよう工夫した。 ・ボランティア活動の考察について、参加生徒の貴重な体験になり、特徴ある活動となるよう検討した。 ・図書委員が何度もミーティングを開き、生徒主体で読み聞かせボランティア、文化祭展示の企画や運営を行った。また、ライブラリー(図書館だよりの制作し、先生方のオススメ本を掲載することや、生徒からのリクエスト帳を活用し読書意欲を喚起した。 ・新入生にはHRの時間等を利用して、読書指導を行い図書室の利用を図った。		
評 価	B	生徒の満足度はどれも高いものであったが、出席率についてはさらに改善する余地がある。	B
学校関係者の意見	・満足度が高いことは良いことだ。客観的な評価もできたら良い。 ・本を1冊以上借りる人を目標としても良いのではないかな。		
次年度へ向けての課題	・学校行事の出席率を上げるよう工夫する。 ・ボランティア活動や部活動に参加する生徒が増えるよう適切な助言や支援を行う。 ・読み聞かせボランティアを継続する。文化祭も企画展示と体験コーナーをつくり魅力あるものにする。 ・図書館だよりの内容充実と、リクエスト帳を活用した来館者の増加や読書意欲の喚起に努める。		

評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:どちらかというと達成できていない D:ほとんど達成できなかった



平成30年度 志貴野高等学校アクションプラン - 5 -					
重点項目	専門学科「情報ビジネス科」「生活文化科」における学習活動の充実と、各種検定試験に効果的な対策を研究する。				
重点課題	・専門教科の学習指導の充実と学力の定着を図り、各種検定試験に対して効果的な対策を行い、受験率と合格率の向上を目指す。 ・被服、食物、保育、情報の各分野において、検定試験を体験的に取り組ませることで、主体的な学習態度を育成する。				
現 状	・読解力や計算力などの基礎学力が不足している生徒もいるので、簿記や情報処理など論理的思考力や計数能力を必要とする専門科目において、内容理解に困難が生じる場合がある。 ・生活経験が少なくなっており、検定合格に必要な被服や食物に関わる基礎的な知識や技術が身につけていない生徒もいる。				
達成目標	各種検定の合格率70%以上。			各種検定の合格率90%以上。	
方 策	・生徒個々の理解に応じた指導や教材の活用を通じて、基本的な学習内容を確実に定着させ、更に発展的な学習内容への関心と意欲を高める。 ・学習効果の高い教材を活用した検定対策により合格を目指す。			・各科目における体験的・実践的学習により、基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。 ・各種検定の合格に向けて、自主教材や過去問題等を活用し、事前学習に取り組ませる。	
達 成 度	合格率62.8%			《被服・食物》77.8%→再受検後96.3% 《被服・食物+情報》61.6%	
具体的な取組状況	・始業前や放課後等を活用した個別指導や補習によって、検定合格に必要な学力の定着を目指した。 ・習熟度による指導、授業の工夫や週末、休業期間中の学習課題等の取り組みにより、自ら学ぼうとする学習意欲の向上を図った。			・実技試験においては、生徒の状況に応じて個別指導や繰り返し練習、放課後の補習を行うことで、技術の定着を図った。 ・筆記試験においては、課題等による家庭学習に取り組ませ、知識の習得を目指した。	
評 価	C	全体合格率	62.8%	B	被服・食物に関しては、再受検することで、ほぼ全員合格できた。
「珠算・電卓検定」		77.0%			
「ビジネス文書検定」		60.6%			
「情報処理検定」		51.6%			
「簿記検定」		56.8%			
学校関係者の意見	・簿記など検定取得について、1年間しっかり学習して1月受検にしたら良いのではないかな。 ・力不足の生徒はいると思うが、資格取得により自信を深めさせてほしい。				
次年度へ向けての課題	・基礎基本から発展的な知識や技術を習得できるような、効果的な指導法や教材・教具の活用をさらに工夫する。 ・効果的な指導法や教材など、職員の意見交換や協力により、生徒が自ら高い目標を持って学ぶ意欲を持てるように必要な支援を行う。			・生徒の実態を踏まえ、基礎知識や技術を身につけさせるための指導法の研究や、上位級合格に向けた指導法の情報交換が必要である。 ・効果的な個別指導や、生徒の負担にならないようなシラバスや年間指導計画の見直しが必要である。	

評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: どちらかというと達成できていない D: ほとんど達成できなかった

